

佐賀大学外部評価実施報告書



令和 7 年 3 月

この報告書は佐賀大学外部評価の結果を取りまとめ、今後の大学運営に活用するとともに本学の活動と評価についてステークホルダーの皆様にお知らせするため公開するものです。

1. 佐賀大学外部評価の概要

○ 外部評価の目的

国立大学法人佐賀大学が自ら行う点検及び評価の結果について、外部の有識者による検証を実施し、教育、研究及び社会貢献等の改善に資するために実施いたしました。

○ 外部評価者(委員)

国立大学法人に関し広くかつ高い見識を有するとともに、国立大学法人の教育・研究その他の活動に造詣の深い学外の有識者から、外部評価者(委員)3名を学長が委嘱しました。

○ 実施方法

外部評価は、国立大学法人佐賀大学が作成する自己点検・評価書等に基づき実施するものとし、外部評価者(委員)は、自己点検・評価書等を各自調査(書面調査)したのち、佐賀大学教職員と質疑応答(実地調査)を行い、評価結果を取りまとめ、学長に報告いたしました。

外部評価者(委員)から提出されたご意見は次のとおりです。

2. 評価者からの意見

●優れていると評価された点

教育

- ・ 全学教育として位置づけられた科目群、データサイエンス、副専攻など、全学の方針のもとで教育の継続的な改善ができています。教学マネジメントシステム¹、「そのサガ見える」²、学修成果の見える化等、データを活用しながら次のステップへと、データ駆動型³の改革が進められています。エビデンスベース⁴の改革であること、及びその裏にある課題感を意識しながら進めていることが、優れた試みで評価できます。
- ・ 入試については、他の大学では実施されていないような入試区分に多面的総合評価を導入しており、学力試験とは異なる側面から、学部が求める学生像により近い受験生の確保がうまくできている点が評価できます。

研究

- ・ 科研費⁵の獲得に関して積極的な取組を行っており、中期目標に対して着実に実施している。科研費の取組は他大学でも力を入れている部分であるため、引き続き取り組んでいくことを期待する。
- ・ 再生可能エネルギーについては、離島などの地域で需要が大きく、佐賀大学海洋エネルギー研究所は世界的にも高い評価を得ている施設なので、研究成果数や共同研究の受入件数といった単なる数的評価指標に縛られることなく、力強く前進していただきたい。
- ・ 様々な分野の特色ある研究成果を、国際的に展開することに力を入れている点が評価できる。「SAGAN 国際知的交流拠点の創出」、「戦略的パートナーシップ・プロジェクト(海外学術交流機関との戦略的パートナーシップ締結による研究活動の積極的グローバル化)」等による、貴学の特色のある研究を国際的に拡げていく取組や、相互交流による学術研究の多様性の強化についての取組は、是非今後も続けていただきたい。

1 個別の授業の成績分布やアンケート結果の経年変化、各学部・コース等の教育課程に配置されている授業のつながり等を可視化するシステム

2 データを使って本学の教育成果を分かりやすくステークホルダーに情報公開することを目的に令和5年6月に公開したWebサイト <https://www.oge.saga-u.ac.jp/mieru/>

3 データを元に次のアクションを決めたり、意思決定を行ったりすること

4 事実や根拠に基づいて意思決定をすること

5 日本学術振興会が資金配分主体となる競争的資金制度の一つ。正式には科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）

社会連携

- ・ 佐賀県の研究支援事業「TSUNAGI プロジェクト」等により、貴学が持つ技術やノウハウによる地域課題の解決や産業及び学術の振興を図り、地域と連携できている点が評価できる。また、県との繋がりを持ち、学内の重要ポスト(監事、部長級)に県から登用する等の取組は、県の課題及びニーズと貴学のシーズとのマッチング、更には貴学の新たなシーズの創出につながる等、貴学の学術振興に寄与していると考えられる。
- ・ 佐賀県有田地域との関わり等においては、地域の伝統と産業(窯業)を理解した上で、地域目線で社会貢献に取り組んでいる点が評価できる。
- ・ 医学部や医学部附属病院において、特に医療人材の育成に力を入れている点が優れている。3拠点目の佐賀大学医学部附属地域総合診療センターも設置し、専攻医への指導、診療件数等、診療のスキルの向上が着実にできている。組織的な取組により「メカニズム」を作って実施している点も評価できる。

大学運営

- ・ 大学全体に拡がる進め方で全学の方針が進められている点、若手を含めた次世代を組込み、次のステップに進めることができている点は優れている。例えば、学長と学部長による懇談会や副学部長相当の教員が委員となる教育委員会等の複数のルートを利用しながら、合意形成を進めている点が高く評価できる。
- ・ IR室⁶がデータマネジメントを総括的に実施するなど、学内の様々なデータを収集・分析・活用するための制度設計がなされている点も評価できる。
- ・ 組織、人、繋がりをデータで支えることで、大学が動くことができている。全体を通して、情報と人の繋がりの風通しの良さが感じられ、大学全体の組織としての動きに繋がっている。
- ・ 新しい学部をつくるなどの組織変更が可能となるよう、研究室などのスペースの有効活用や入学定員の全学管理などが可能な制度と雰囲気があり、学部改組などの新たな取組に対するリソースの配分の可能性を上げている点が評価できる。
- ・ 県内の地方公共団体との接続について、役所及び地域の重要人物など、様々な接続の手段を試みている点も評価できる。
- ・ ピアレビュー⁷として外部評価を導入することで、大学内部の改善に繋げようとしている点が高く評価できる。

6 インスティテューショナルリサーチ(Institutional Research (IR))とは、大学の場合、学内に蓄積されているデータを集積、分析し、意志決定や改善のための支援を行う活動

7 同じ専門領域をもつ仲間の中で、業績評価を行うこと

●改善が必要と評価された点

(評価員意見)評価指標の判定について

中期計画6-1の実施状況の判定について、定量的な評価指標①「各研究施設の施設設備を利用した研究成果数 10%増加(第3期平均値に比した第4期平均値)」が令和4年度も令和5年度も基準値を下回っているため、令和5年度は、「Ⅱ」と判定しているものの、令和4年度の判定が「Ⅲ」というのは少々甘いように感じられる。

(佐賀大学)

ご指摘のとおり、未達の評価指標があり、その他の評価指標も基準を大きく上回っていない中期計画を「Ⅲ」と判断するには根拠が十分ではありませんでした。令和6年度以降は判断基準を明確にし、より客観的に評価するよう改善いたします。

(評価員意見)挑戦的・意欲的な学内目標について

文部科学省は、数値目標を達成しなければ計画は未達とするKPIの考え方で法人評価の年度評価を行ってきた。したがって、必ず達成できそうな目標を立てることは理解するが、第4期からは年度評価がなくなったことでもあり、意欲的な取組を促進するため、法人評価向けの目標とは別に、OKR⁸の考え方で、達成可能性が五分五分のような目標を学内目標として立て、達成できなくとも60~70%進捗していれば良いと自己評価するといった仕組みを導入してもよいと思われる。

(佐賀大学)

本学では、中期計画とは別にビジョン2030に基づく学内計画を立てて取組んでいるものもありますが、いずれも達成が見込める数値目標を設定しているのが現状です。ご提案のような達成可能性が五分五分の挑戦的・意欲的な目標は、教職員のモチベーションアップが期待できるので、今後検討いたします。

⁸ OKR (Objectives and Key Results) とは、組織が設定する定性的な目標(Objective)と複数の定量的な成果(Key Results)を設定し、方向性を明確にすることにより組織全体の生産性や業務効率アップを目指す目標管理の手法

(評価員意見)自己点検・評価の方法について

改善を継続的に実施するために、評価を適切にくり返すことが重要である。「部門毎評価などによる部局・部門毎の評価」を行うこと、「個人評価を含めて、点数をつける際に、0.5単位等を導入して評価の段階を増やす」等、制度変更を検討してみるのはいいのではないだろうか。部門評価を行うことで、部門・部局として頑張っている部局の個人評価の全体を上げるなどが可能となるであろう。また、段階を増やすことで、個人としても評価されていることを意識しやすくなるなどの効果がある。

(佐賀大学)

ご提案のとおり、より多くの教職員が納得し、向上が図れる評価制度にするため、評価制度の見直しを継続的に行う必要があります。本学では、各部局は自己点検・評価を毎年、外部評価を隔年で実施していますが、必ずしも客観性が十分に担保されているとは言いきれません。また、本学独自の予算配分方法である「評価反映特別経費」は、部局の取組の達成状況に関してIR機能を活用したデータに基づく評価を実施し、予算配分に反映させています。より多くの教職員が評価されていることを意識できるような工夫も必要であるので、今後検討してまいります。



佐賀大学公式
マスコットキャラクター
カッチーくん

令和6年度 佐賀大学外部評価(実地調査)

日時:令和6年11月29日(金)

場所:佐賀大学本庄キャンパス 本部棟2階 大会議室

○委員出席者:

西田 睦 委員 琉球大学 学長

岩井 久 委員 鹿児島大学 理事(企画・社会連携担当)

安永 卓生 委員 九州工業大学 理事(教育接続・連携 PF、情報担当)

○佐賀大学出席者:

兒玉 浩明 学長

渡 孝則 理事(総務・人事担当)

大島 一里 理事(企画・将来計画担当)

山下 宗利 理事(教育・学生担当)

豊田 一彦 理事(研究・社会連携担当)

石田 雄三 理事(財務・施設担当)兼 事務局長

山田 泰教 学長補佐(大学評価担当)兼 評価室長

阪本 雄一郎 学長補佐(医療担当)

只木 進一 副評価室長

○議事次第

1. 開会挨拶(大島一里 佐賀大学理事)
2. 外部評価者紹介 及び 佐賀大学担当者紹介
3. 学長挨拶
4. 質疑応答
5. 講評
6. 閉会

○配付資料

令和4・5年度自己点検・評価書(教育・研究・社会連携)

【参考】第4期中期目標期間当初策定:「中期目標達成のシナリオ」及び
「達成するための方策」

【参考】根拠資料

【参考】令和4年度及び令和5年度自己点検・評価書

【参考】佐賀大学のこれからービジョン2030ー

【参考】佐賀大学案内

【参考】佐賀大学概要